

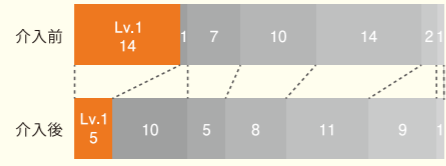
数字でみる錦海リハ

過去3年間に於ける当院訪問リハビリ(言語聴覚士)の関わり

「口から食べる」支援を積極的に行っています

過去3年間でリハビリを実施したご利用者において、口から全く食べていない方が14人から5人に減り、少量でも食べられるようになった方がおられます。当院では必要に応じて外来での嚥下造影検査(VF)や地域歯科医と連携し、「食べる楽しみ」の再獲得のために、積極的にリハビリを行っています。

訪問介入前後の食事摂取の変化



FOIS (Functional Oral Intake Scale)

※ FOIS…現在どのように栄養摂取を行っているかを評価する尺度

- Lv.1 経口摂取なし
- Lv.2 補助栄養に依存、少量の経口摂取を試みるのみ
- Lv.3 補助栄養に依存しているが、継続的に食品や飲料を経口摂取している
- Lv.4 すべての栄養・水分を経口摂取、一種類の食形態のみ
- Lv.5 すべての栄養・水分を経口摂取、複数の食形態。ただし、特別な準備や代償法が必要
- Lv.6 すべての栄養・水分を経口摂取、複数の食形態。特別な準備は不要だが、特定の物は食べられない
- Lv.7 正常

専門雑誌・書籍掲載

角田賢(医師・病院長)、善波吉人(社会福祉士・事務局長兼地域医療連携室室長)
特集2 良質な回復期リハビリテーション医療を支えるプロセス充実への取り組み
 2.2.5 診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している「多職種による早期の各種評価とカンパニョーンスで診療計画を作成 全患者で初期評価を標準化」
 2.2.23 必要な患者に継続した診療・ケアを実施している「退院後を見越した支援で円滑な在宅意向を推進 退院後6か月状況をデータ化し退院支援に反映」
 回復期リハビリテーション第22巻第3号(通巻86号)、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会、2023.10

角田賢(医師・病院長)、神坂綾(社会福祉士)／チャレンジ企画「みんなでスム!チームカンパニョーンス～認知症高齢整形患者事例～」
 回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会in熊本、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2024.3.8-9、熊本県
 角田賢(医師・病院長)／2024年度診療報酬改定について
 第42回松江市脳卒中地域連携バス合同委員会、松江市脳卒中地域連携バス合同委員会主催、2024.3.21、松江市
 佐藤勝之(言語聴覚士)／“きこえ”をよくして変わる生活～聴覚は50代から衰える～
 市民公開講座、境港市・山陰言語聴覚士協会主催、2024.3.27、境港市

外部講演

松本昌樹(理学療法士)／フレイル予防に重要な栄養と口の健康
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.10.11、米子市
 鳥谷香蓮(理学療法士)／転倒・転落に気を付けてフレイルを予防しよう
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.10.18、米子市
 野坂進之介(理学療法士)／フレイルと脱水症
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.11.1、米子市
 濱崎喬之(言語聴覚士)／構音障害の事例検討
 令和5年度第6回通級担当者及びLD等専門員の研修会、西部地区特別支援教育研究会主催、2023.11.6、米子市
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
 フレイルの説明、フレイルに関連した栄養と口の健康評価
 鳥谷香蓮(理学療法士)／フレイル予防に重要な栄養と口の健康
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、鳥谷香蓮(理学療法士)フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.11.15、米子市
 田村篤人(言語聴覚士)／失語症者とのコミュニケーション
 失語症の方とのコミュニケーションに関する講習会について、鳥取看護大学赤十字奉仕団主催、2024.11.17、米子市
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)／歩く力を鍛えてのぼそう健康寿命
 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)／日常生活で注意できること
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.11.21、米子市
 星山望(作業療法士)／在宅でのリハビリテーション
 在宅医療推進のための看護師育成支援事業、鳥取大学主催、2023.11.27、米子市
 遠藤美紀(理学療法士・リハビリ技術部主任)／フレイルと脱水症
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.11.28、米子市
 角田賢(医師・病院長)／リハビリテーション部門におけるリーダーへの期待
 第5回PTOTSTリーダー研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2023.12.2、オンライン
 松本昌樹(理学療法士)／歩く力を鍛えてのぼそう健康寿命
 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)／日常生活で注意できること
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2023.12.12、米子市
 鳥谷香蓮(理学療法士)／フレイルおよび認知症予防のカギとなる「運動」について学ぶ
 米子市フレイル予防事業、米子市、2023.12.12、米子市
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)／フレイルにつながる腰痛への対策
 米子市フレイル予防事業、米子市、2023.12.20、米子市
 木嶋恵美(管理栄養士)／在宅における栄養管理の実際
 在宅医療推進のための看護師育成支援事業 III訪問看護能力強化コース、鳥取大学医学部附属病院主催、2023.12.22、米子市
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)／転倒・転落に気を付けてフレイルを予防しよう
 米子市フレイル予防事業、米子市、2023.12.26、米子市
 門脇康浩(言語聴覚士)／山陰言語聴覚士協会の歴史
 令和5年度山陰言語聴覚士協会新人研修会、山陰言語聴覚士協会主催、2024.1.21、松江市
 横木貴史(理学療法士)／フレイルにつながる腰痛への対策
 米子市フレイル予防事業、米子市主催、2024.1.23、米子市
 田村篤人(言語聴覚士)／鳥取県失語症者向け意識疎通支援事業の現状と課題
 鳥取県失語症者向け意識疎通支援事業「市民公開講座」、鳥取県・鳥取県失語症者支援センター主催、2024.2.3、米子市
 濱崎喬之(言語聴覚士)／学習障害の評価と支援
 令和5年度第9回通級担当者及びLD等専門員の研修会、西部地区特別支援教育研究会主催、2024.2.5、米子市
 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)／臨床実習における管理・運営／職業倫理および連携論
 川上統司(作業療法士)／臨床実習指導方法論
 令和5年度第1回鳥取県臨床実習指導者講習会、日本作業療法士協会主催、2024.2.10-11、米子市
 角田賢(医師・病院長)／これからの地域リハビリテーションの視点
 全国地域作業療法研究会 第29回学術集in広島、日本地域作業療法研究会主催、2024.2.11、広島県
 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任)／令和6年能登半島地震支援活動報告
 令和5年度地域包括ケアシステム委員会大研修会、鳥取県作業療法士協会主催、2024.2.16、オンライン
 濱崎喬之(言語聴覚士)／子どものことは育てよう～どんな声かけをしたら良いかな?～
 大山きゅらほく保育園育児講座、西伯郡大山町主催、2024.2.28、大山町
 角田賢(医師・病院長)／令和6年能登半島地震における鳥取JRATの災害リハビリ支援活動について
 平野正樹(作業療法士・リハビリ技術部主任)、若田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
 JRAT R-スタッフによる派遣活動報告
 第1回令和6年能登半島地震における鳥取JRAT派遣報告会、鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取JRAT)主催、2024.2.28、米子市
 佐藤勝之(言語聴覚士)／生活期でのSTの関わりについて
 木嶋恵美(管理栄養士)／生活期でのST・管理栄養士の関わりについて
 第14回鳥取県訪問リハビリテーション実務者研修会・在宅リハ研修会、鳥取県リハビリテーション専門職連絡協議会(POST)主催、2024.3.3、オンライン
 角田賢(医師・病院長)
 研修委員会企画「回復期リハビリテーション病棟における情報共有～より良いチーム医療を目指して改めて考える～」
 回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会in熊本、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2024.3.8-9、熊本県

学会発表

鳥谷香蓮(理学療法士)
 使用不能になった車椅子を回収し、リユースに繋げる法人内の取り組み
 永島敬子(言語聴覚士)
 非機能性下体腓膵抽出術後に重度嚥下障害をきたし、その後著明な改善を認めた1例
 第21回日本臨床医療福祉学会、2023.10.13-14、福島県
 上村順一(理学療法士)
 在宅看取り時に主介護者の介護負担感が低く利用後の満足度が高かった訪問理学療法で介入した一例
 横木貴史(理学療法士)
 脳血管疾患におけるMNA-SFを用いて評価した入院時の栄養状態が歩行自立に要する日数に及ぼす影響
 永岡直充(理学療法士)
 回復期病棟へ入院した脳血管疾患を持つ症例における拘束性換気障がいの有無がFIM-mおよび運動能力に及ぼす影響
 松本昌樹(理学療法士)
 下肢荷重率の向上に伴い歩行様式に変化を認めた脳卒中片麻痺を呈した一症例
 二重課題エクササイズを通して自転車運転獲得を図った症例
 生田陽介(作業療法士・リハビリ技術部主任)
 新型コロナウイルス事業所内感染0に向けた取り組み～業務改善と感染予防対策～
 前原里帆(作業療法士)
 回復期リハビリテーション病院における自動車運転評価実施後の追跡調査と一考察
 澤田夏紀(作業療法士)
 経験年数の違いが及ぼす患者のモチベーションの変化についての一考察
 佐藤勝之(言語聴覚士)
 補聴支援における県土の取組みと補聴器着用者の経過
 田村篤人(言語聴覚士)
 鳥取県失語症者支援センターの現状と課題
 リハビリテーションケア合同研究大会 広島2023、2023.10.26-27、広島県
 鳥谷香蓮(理学療法士)
 フレイル予防事業における専門職による講義およびヘルスリテラシーの評価をはじめとする介入効果
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
 回復期病棟における入院時の重度サルコペニアの評価と複数回転倒の関連性
 第10回日本予防理学療法学会学術大会、2023.10.28-29、北海道
 川上統司(作業療法士)
 回復期病棟退院後、生活期の訪問リハビリテーションにて自動車運転評価に関わった一症例
 第57回日本作業療法学会、2023.11.10-12、沖縄県
 足立睦未(理学療法士・リハビリ技術部副主任)
 回復期病棟入院患者のサルコペニア評価と転倒を経験した割合の調査報告
 横木貴史(理学療法士)
 自宅復帰に向けたMNA-SFスコアの目安
 清水優(理学療法士)
 回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中を発症した症例において体幹の骨格筋量がサルコペニアの合併および改善におよぼす割合
 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
 スタッフ要因による転倒転落を減少させるための取り組み～病棟ラウンドを通じて～
 原田あゆ美(作業療法士)
 脳出血により重度片麻痺・記憶障害・病識低下を呈した患者への家族参加型での関わり
 三好綾(言語聴覚士)
 言語聴覚士による失語症患者の退院に向けた取り組み
 盛山亮太(言語聴覚士)
 回復期から生活期への情報提供について～施設間での意見交換を通して～
 回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会in熊本、2024.3.8-9、熊本県
 木嶋恵美(管理栄養士)
 錦海リハビリテーション病院での訪問栄養指導の取組み
 第22回栄養士のための調査・研究研修会、2024.3.9、倉吉市

※氏名、職員の写真は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたくしたちは

回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
 TEL 0859-34-2300【代表】
 FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300【代表】
 E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
 URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2024 VOL. 19

SPECIAL 最前線 1

2026年2月6日(金)～7日(土)に回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子 開催決定

アットホームな雰囲気の研究大会となるよう準備を進めています

2020年から続いたコロナ禍もようやく終わり、リモートで行われていた全国学会や研修会も現地での対面で開催されるようになりました。回復期リハビリテーション病棟協会研究大会も2020年、2021年の2大会が中止となりました。この2つの大会は札幌と熊本での開催予定でしたが、この2つの大会が2024年、2025年に熊本、札幌の順番で行われることになりました。この大会に続く2026年大会は鳥取県米子市での開催が決定しています。2018年10月のリハビリテーションケア合同研究大会以来の全国大会を主催させていただくことになりました。

山陰地方で初めての回復期の研究大会となります。交通手段も限られ、宿泊可能な宿も少ない地方都市での大会である上、会場も小さいため、都会で開催されるような大規模な大会というわけには行きませんが、アットホームな雰囲気の大会にできればと考えています。



回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会in米子 プレ講演会 その1
 回復期リハビリテーション病棟協会 会長 三橋尚志先生(医療法人社団同慶会 京都大原記念病院 副院長)の講演の様子



令和5年10月26日(木)～27日(金)に開催されたリハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023(回復期リハビリテーション病棟協会第42回研究大会)の学会視察での当院職員の集合写真

回復期リハビリテーション病棟の根幹とも言えるチーム医療を進化させていくために

この大会へ向け、開催機運を盛り上げていこうということで、回復期リハ研究大会のプレ企画を開始しました。まず第1回講演会として回復期リハビリテーション病棟協会の会長、京都大原記念病院の三橋尚志先生に「回復期リハビリテーション病棟の現在地と未来ー2024年度診療報酬改定を通過点としてー」という題名でご講演いただきました。回復期リハビリテーション病棟の現状とこれからどう発展していく必要があるのかをわかりやすく解説していただき、これから何を頑張ればよいかを示していただきました。第2回は6月に西広島リハビリテーション病院の岡本隆嗣先生に「回復期リハビリテーションにおけるICFの活用とチームアプローチ」というタイトルで講演をお願いしています。回復期リハビリテーション病棟の根幹とも言えるチーム医療を進化させていくためには患者さんの全体像を把握し、情報を共有していくことが重要です。どのようにして多職種チームを構築し、協同して回復期リハビリテーション病棟を運営していけばよいか勉強する良い機会となればと考えています。

今後も定期的に回復期リハビリテーションに関連した研修会を開催する予定です。より質の高い病棟の構築へ向け、一緒に頑張っていきたいと思います。

What's New

回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会in米子 プレ講演会 その2

特別講演「回復期リハビリテーションにおけるICFの活用とチームアプローチ」
 講師：岡本隆嗣 先生(回復期リハビリテーション病棟協会 常任理事
 (医療法人社団同慶会 西広島リハビリテーション病院 理事長)
 日程：2024年6月8日(土)10時～11時30分(開場：9時30分)
 会場：米子コンベンションセンターBIGSHIP 国際会議室



お申込はコチラから

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション技術部の紹介 訪問リハビリテーションのお仕事

持ち物から紐解く訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションは、ご自宅に伺い生活環境に応じて、その人らしい生活が送れるように支援しています。ご自宅の生活用品を使用してリハビリを行います。その他に必要なものは病院から持ち寄っています。そのため、スタッフは大きなバッグを持参し、様々な状況に対応します。今回はバッグの中の持ち物から訪問リハビリテーション（健康状態の確認、理学療法、作業療法、言語聴覚療法）について紹介したいと思います。



理学療法士による訪問リハビリテーションの様子

作業療法：やりがいに繋がる生活活動を支援

人は誰も「好きなことをして楽しみたい!」、「誰かの役に立ちたい!」と少なからず思い、生きるための喜びや張り合いを得たいと考えるものです。訪問作業療法士はそのような利用者さんの願いを叶えるため、やりがいに繋がる生活活動を支援しています。園芸活動と一緒にすることもありますが、そのような時は日焼け予防の為に麦わら帽子や土いじりに備えて軍手を持参することもあります。



作業療法士による訪問リハビリテーションの様子

言語聴覚療法：食べる楽しみ&伝え合う喜びを支援

言語聴覚士は「大好きな物を食べたい」「あの人に気持ちを伝えたい」と抱く気持ちを実現するためにリハビリを行います。食べる準備を行う口腔ケアセットや最初の一口を評価する小児用聴診器や嚥下訓練ゼリーを使って嚥下訓練を行います。失語症者の想いを引き出す地図やiPad等のコミュニケーションツールの他、カラオケマイクを使って楽しむリハビリを提供します。



言語聴覚士による訪問リハビリテーションの様子



健康状態の確認：安心・安全なサービスの提供



介入前にバイタル測定を行うため、全スタッフが血圧計、体温計、パルスオキシメーターを常に持ち歩いています。測定値が異常の場合や健康状態に問題があると判断した場合、病院受診を勧奨する等対処し、リハビリを中止させてもらうこともあります。また、感染対策として使い捨て手袋、消毒用アルコール液、ビニールガウン等も携行しています。



What's in my bag?

スタッフが訪問時に持っているリュックの中身の一部

理学療法：車いすや歩行器で明日への一歩を支援

訪問理学療法士では、四肢や体幹の長さ、太さ、運動範囲を評価するための角度計やメジャーを持っています。また、車いすや介護機器の調整や安全性を低下させる、ゆるみの解消のために簡単な工具も持ち歩いています。転倒予防や転落防止のため、滑り止めマットも常時持ち歩いています。必要に応じて、病院から杖や歩行器などを持出し、試用してもらい、適切な福祉用具の適合を行い明日への一歩を支援しています。

TOPICS 01

医療機関向けドライビングシミュレーターを導入しました

山陰地方で生活する人々にとって自動車の運転はなくてはならない移動手段です。当院に入院される患者さんの中にも運転再開の希望をされる方が多くおられます。自動車運転再開支援を行う中で、運転の実践的な練習が不十分であることが課題でした。

この度導入したドライビングシミュレーターは、本物の自動車に使用されているハンドルや座席などの装備が使用されており、3画面のモニターにて実際の運転に近い感覚で体験をすることができます。また、市街地などを走行するソフトも充実しており、今まで不十分であった訓練場面の導入も可能です。初めは病棟の入院患者さんから利用を開始し、退院後の対象者の方々にも支援を拡大していきたいと考えています。



医療機関向け本格ドライビングシミュレーター「DB型Model-A」(本田技研工業)

TOPICS 03

令和6年能登半島地震 JRAT R-スタッフ帰還報告会

1月1日に発災した震災に平野正樹作業療法士、岩田久義言語聴覚士の2名が(一社)日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)のR-スタッフとして、1月5日より現地派遣され10日に帰還しました。

両名は後に続くリハビリテーション支援の先遣隊として「新たな活動拠点の立ち上げ」「被災状況および避難所の情報集約」を行いました。立ち上げた拠点が現在も引き続き運用されているということで、大きな役割を果たしたと感じています。帰還当日に病院職員を対象とした報告会を行い、現地の街やそこで助け合っている住民の様子など、半島ならではの災害の大変さを伝達しました。会には多くの職員が集まり、病院全体がこの活動を応援し、病院代表として派遣されていたことを改めて実感した次第です。今後、災害支援に目を向ける職員が増えていくよう、伝え続けて参ります。

※R-スタッフ(JRAT Rapid Response Team Staff)

平野正樹、岩田久義



令和6年1月10日に開催された帰還報告会の様子



TOPICS 02

第43回回復期リハビリテーション 病棟協会研究大会in熊本 チャレンジ企画に登壇しました

令和6年3月7日・8日に開催された第43回回復期リハビリテーション病棟協会研究大会in熊本で企画された「みんなでススム!チームカンファレンス～認知症高齢整形患者事例～」に角田賢病院長(座長)と神坂綾社会福祉士が登壇しました。

企画では、架空の患者さんについてICF(国際生活機能分類)シートを活用して患者さんの全体像を整理・把握した後、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、社会福祉士、管理栄養士による模擬カンファレンスが行われました。その人らしい生活を再建することを目指して、それに向けた具体的なチームアプローチが協議されました。会場参加者との活発な意見交換もなされ、チーム医療の重要性を改めて考える良い機会となりました。



模擬カンファレンスの様子
写真左は神坂綾社会福祉士、右は角田賢病院長

TOPICS 04

キャッシュレス決済を導入しました

当院では2024年4月1日より現金を使わずにスマートフォンやクレジットカードなどで支払いを行うことができるサービス「キャッシュレス決済」を導入しました。

従来は現金のみのやりとりでご不便をおかけすることもありましたが、キャッシュレス決済導入後は、クレジットカード、電子マネー、コード決済など約30種類の決済手段に対応しております。詳しくは1階事務受付窓口又はホームページでご確認ください。

今後も患者さんの声を大切に、利便性の向上や院内環境の改善に努めてまいります。



当院受付窓口での入院や外来費用のお支払いにご活用いただけます